
LINGUA LANGUAGE STUDIO

2026中高生年間受講案内

今も世界最低レベルに低迷する日本人の英語力 問題はその学び方にあります 英語が難しいわけではありません！

出来なかったことが出来る喜びは何にも代え難いものです。分からないことが分かると、もっと分かろうとします。もっと知りたい、もっと上手になりたい、その延長上で大学入試まで... そんなウマイ話が... はい、あります！

正しく学べば英語は難しくありません。英語が難しいとしたら学び方に問題があります。たとえば単語を暗記し訳し方を覚え、ひたすら英語を日本語に置き換える伝統的な学習法。頭に残るのは英語ではなく不自然な日本語だけ。これで英語が身に付いたらその方が不思議なのですが、それがなぜ根強くはびこるかといえば、日本語ゆへの馴染みやすさと、とりあえずのヤツ感に加えて、情けない話ですが、それだけが自分の学習経験で、それしか教え方を知らず、だからそれが一番ラクだという英語の先生が、いまだに少なくないことです。多くの専門家が反対する中で、まともな準備もなく強行された小学校英語の現状を見れば、いわゆる早期教育が解決にならないことも明白です。

日本語環境に居ながら英語を身につけるには、ある程度の忍耐力と持続する意思がいうまでもなく必要です。何の努力も必要とせず、ひとりでの英語が身につく方法などありません。大切なのは、その努力が望む結果につながり、学ぶ喜びが実感できること。だからこそ、知的好奇心に働きかけ発見がもたらす知的興奮を継続のモチベーションとし、学習が高度になるほど分かる喜びも深まるカリキュラムが重要になります。私たちはオールイングリッシュでそれを実現しました。アジア人に英語を教える経験から生まれた Graded Direct Method (GDM)* をベースとする、日本人学習者に最も学びやすいオールイングリッシュ・プログラムです。無理して日本語を使わないのではありません。その必要がないほど授業が明快でわかりやすいから使わないのです。6年に及ぶ長期の学習を持続できる理由がここにあり、高いレベルでバランスのとれた英語4技能と圧倒的な長文読解力は、英語入試や資格試験で大きなアドヴァンテージというだけでなく、生涯にわたって役立つ「使える知のツール」となります。

国公立大・早慶・上位医学部に強い オールイングリッシュ・プログラム

高い目標を掲げるからこそ基本を大切にします

英語を日本語に訳さず英語のまま理解し、言いたいことが英語で直接表現できる。私たちの脳がこの状態にあることを「英語で考える」と言います。それこそが英語学習の究極の目標であり、私たちの英語プログラムはそのためにあります。私たちが日本語を使う時に文法を意識することは滅多にありません。文法を意識しなくとも常に文法的に正確な日本語が使えます。それが出来るのは、言語活動を通して文法を説明的にではなく直観的に理解しているからです。英語でも、それが英語で考える直接の土台となります。聞いて話すことが基礎訓練として何より重要な理由はここにあります。そのスキルを読解に拡張すれば、それが直読直解です。直読直解とは「頭から訳す」ことでも「細部に拘らず大雑把に読む」ことでもありません。その真髄は、英語のまま速度と精度を両立させて理解することにあります。それは圧倒的な長文読解力を備えたオールラウンドな英語力です。いわゆる英和訳でも、直読直解が出来なければ正しい訳など覚つきません。進学・卒業後は、それが本当の意味での実用英語です（大学入試に歯が立たない英語が実用的ですか？英文の雑誌や新聞で普通に使われる英語は、もっと難解です）。敢えて言いましょう。使える英語を身につけたいと本気で望むなら、私たちのオールイングリッシュ・プログラムが、その第一選択です。

<2017-25大学合格> 東大13, 京大2, 一橋2, 東京外語2, 筑波5, 国際教養大, 北大5
横国大2, 医科歯科大医2, 千葉大医2, 金沢大医, 新潟大医, 浜松医大医, 福島県立医大医
弘前大医, 慶應34 (医4, 他30), 日医5, 慈恵医6, 順天医7, 東邦医3, 他医学部 33
歯学5, 薬学9, 早稲田53, ICU 4, 上智16, 立教13, 明治12, 理科大6, 青学8, 海外4

発信する知のツールとして英語を学ぶ

オールイングリッシュ基幹プログラム

■ 前期 SUPREME PROGRAM (中学生プログラム)

英語で考える英語学習はその基礎段階から行うことで、高い効果を期待できます。大人と同等の認知能力が備わり且つ言語習得能力が十分に機能する中学生は最適の時期といえます。日本語による学習は長く続ければ続けるほど日本語への依存を深め、英語で考えることを困難にします。他方で全部英語の授業であっても、文法を獲得し英語で考える枠組を構築することが出来なければ効果は限られます。英語のシャワーが効かない理由はここにあります。小学校で英語をやっつていようと英検を取得していようと、基礎の疎かな方は珍しくありません。基礎とは易しいということではありません。たとえば a と the。これが正しく使い分けられる方は、大学まで10年以上英語をやっつても決して多くありません。使い分けの基礎が出来ていないからです。あるいは関係代名詞。難しい文法事項の代名詞ですが、教え方が適切であれば中1生でも容易に使いこなせます。そういう英語全体の骨組みとなり、先に進むほど有用となる重要項目が本当の基礎事項。それらを早期にしっかりと身につけ、正確な文法と豊かな英語表現力を両立させる事を目標に、前期プログラムは組み立てられています。

◆ LEVEL1 (週2) 第1日(水) 17:40-20:40 第2日(日) 15:00-16:50

英語で理解し英語で考えるための基礎プログラム。基本動詞、前置詞句、指示語句、時制、SVOC、関係節、副詞節、使役構文、動名詞構文等、英語の骨組みとなる項目を、日本語を一切使わず習得に最も無理のない順序で導入し、聞き話し読み書く4技能を高いレベルでバランスよく鍛え上げます。それが先に進んで、長文読解とライティングに必須となる「英語で考えて英語を使う」土台となるのです。 <中1以上>

使用教材： 独自テキスト、English Through Pictures (EP) Bk.1-2

◆ LEVEL2 (週2) 第1日(木) 17:40-20:40 第2日(土) 15:30-17:30

中学レベルの語彙と構文を年度内にはほぼ終了し、年度後半には多読・速読指導に進みます。粗雑な飛ばし読みではありません。「英語で考える」からできる、速く正確な本物の読解力。一般的な高校入試にも十分対応できます。中3でも直読直解に自信のない受験生にはレベル3より適切な選択となる場合があります。 <中2以上>

使用教材： 独自テキスト、EP Bk.2-3、サイドリーダー 10冊

◆ LEVEL3 (週1) (月) 18:00-21:00

英語論説文の情報構造を読み解く読解技術とパラグラフ・ライティングの基本を中学終了までに身につけます。語彙と構文の理解を深化する4技能トレーニングも怠りません。サイドリーダーを毎週1冊読む多読演習は英語の基礎体力を最も確実に強化します。 <中3以上>

使用教材： 独自教材、EP Bk.3, Insights for Today, NorthStar 2 他、サイドリーダー 30冊

■ 後期 SUPREME PROGRAM (高校生プログラム)

大学入試は通過点に過ぎません。後期プログラムは、生涯にわたって役立つ「知のツール」となる汎用性の高い英語のスキルを獲得し、日本語の枠を超えて世界に広がる広大な知の地平を獲得する事がその最終目標です。大学進学後は学術書に取り組み直接の準備となり、ビジネスを含むその後の社会生活では聞き話すことはもとより読み書くことにおいても、さまざまな専門領域にまで応用が効く、その意味で真に実用的な英語です。避けて通ることのできない大学入試の備えにも抜かりはありません。英語に関する限り、いわゆる「医学部英語」を含め不安のない万端の準備で臨めます。それが「英語で考える」英語の実力です。レベル5とレベル6では大学進学準備プログラムとして英文和訳と和文英訳を含む入試問題の日本語による演習も行います。

◆ LEVEL4 (週1) (土) 18:00~21:00

このレベルがクリアできれば、大学入試共通試験程度の英語長文は無理なく読めます。またリスニングは易しく感じるでしょう。ある程度は英語で話せ高校入試程度の英語長文が直読直解できる高1生に最適ですが、一語一句を和訳しなければ英語が理解できない場合は、まず直読直解の基礎訓練が必要です。 <高1以上>

使用教材： EP Bk.3, Longman Academic Reading Series 1, 2 他 サイドリーダー 20冊

◆ LEVEL5 (週1) (火) 17:40~21:00

大学入試が気になり始める時期ですが、何より重要なことは英語の基礎体力を充実させること。多様なトピックに親しみながら読む英文のレベルを徐々に上げ量をこなして器の大きな骨太の英語力をまず作り上げ、そこに解答技術を加えて入試に臨むのが正しい戦略です。高得点の鍵は、英語長文の情報構造を正しく読み取る手順にあります。単語レベルで意味をつなぎ合わせるボトムアップに頼らず、コンテキストの全体を俯瞰し、その視点で部分を読み取るトップダウンで読むことが、長文読解には必須のスキルです。実際の入試でそれがどう役立つかは、授業の一部に組み込まれた入試問題の演習が実感させます。課外のリーディングも語彙と構文を調整した学習用の Graded Readers から通常の洋書ペーパーバックへとレベルを上げていきます。 <高2以上>

使用教材： Longman Academic Reading Series 2, 3 他, サイドリーダー/洋書多数

◆ LEVEL6 (週1) (金) 17:20~21:10

授業での使用教材は大学レベル。日本語の枠を超えた広大な知の地平が広がる世界です。加えてJames Patterson, John Grisham, Sydney Sheldon 等の現代的なベストセラー作品や Stephen Hawking, Yuval N. Harari 等の著名執筆者によるエッセイや教養書をサイドリーダーとして利用し、大学進学後を見据えて専門書を読むにも十分なレベルの英語を目指します。そこで鍛えられる深い洞察力と圧倒的な長文読解力は、精選された入試問題による演習（日本語で行います）やベテラン・ネイティブ講師によるエッセイ・ライティングとも相俟って、**東大・早慶・上位医学部**を含む最難関英語入試に余力をもって臨む磐石の土台となります。 <高3以上>

使用教材： The Expanding Universe of English II (東大出版会) 他, 難関大学入試問題 サイドリーダー/洋書多数

<受講費用一覧>

	春期 (5日)	1期 (前5週/後5週)	夏期 (7日)	2期 (前6週/後6週)	冬期 (4日)	3期(7週)	年額 (除春期)
レベル1	(31,000)	52,000/52,000	43,500	62,000/62,000	25,000	72,000	368,500
レベル2	(31,000)	52,000/52,000	43,500	62,000/62,000	25,000	73,000	369,500
レベル3	(31,000)	33,000/33,000	43,500	39,500/39,500	25,000	46,000	259,500
レベル4	(33,000)	36,000/36,000	45,000	43,000/43,000	26,000	51,000	280,000
レベル5	(33,000)	42,000/42,000	45,000	50,500/50,500	26,000	58,000	314,000
レベル6	(42,000 : 6日)	49,000/49,000	47,500	59,000/59,000	<直前講習>		263,500

- (1) 通常期受講の際に入会金¥26,000 を別途申し受けます（初回のみ）。表記の受講費用は教材費と消費税を含みます。
- (2) 各レベル春期講習はオリエンテーションを兼ねた**独立プログラム**となり、年間受講費用に含まれません。また**レベル6の直前講習も独立プログラム**となり、**基幹プログラム**の受講費用には含まれません。
- (3) 納入された受講費用は理由を問わず返却致しかねます。合計金額が5万円を超えかつ受講期間が2か月以上に及び年間一括等の長期預かり金は、受付開始後の当該期受講費用と手数料を含む事務諸費用を差し引いて解約を承ります。

<体験報告 ①> 英語入試を制する圧倒的な長文読解力

東京大学教養学部卒

宮下 玲 (公共放送勤務)

リングで僕が体験したのは、帰国子女が英語を身に付ける年月を、効率良く圧縮した過程だった。ものを見て、身体を動かして、声を出す。それを徹底的に日本語抜きでやるから、問答無用に英語脳がつくられる。受験に向かないだけの英会話ではない。メソッドの裏には、僕たちが知らないうちに英語の骨組みを肌に染み付けさせる周到な計算があった。ただし、あくまで「知らないうちに」である。語彙は暗記するのではなく吸収され、文法は意識的に学習しなくとも後ろからついてきた。もちろん、本を読むときや入試問題を解くときにも、特にその辺りを意識することはない。英和辞典や文法書がなくとも、英語が英語のまま、おそらく英語圏の人がすると同じように理解でき、使えるからだ。また、英語を英語のまま学んで、日本語への変換の際に損なわれる小説などの表現のニュアンスにまで触れることができるようになり、英語が大好きになった。アガサ・クリスティーの『そして誰もいなくなった』の原書を毎夜一時まで読み、好奇心を噛み殺して泣く泣くしおりをはさんだ高三の12月を思い出す。いわゆる受験英語が出発点かつ目標におく、英語と日本語を対応させる力を、英語力と呼ぶ気はしなくなる。

いったいどれだけのアドバンテージを、リングの方法論からもらったか分からない。読み、書き、聞き、話す。これらの行為と脳とのあいだの日本語という交通障害を取っ払うだけで、なんてスムーズに簡単に正確に楽しく英語が使えることか、自由自在である。そして、東大の英語入試が求めているのも、まさにそういう力、つまり本物の、あるいは当たり前の、英語力であったと今は確信している。また当然、僕は一度も単語帳を使ったことがない。必要がなかったし、リングで身に付けたスタイルではないからだ。

こうして芯から英語を理解したとき、全くの外の視点から、今まで自分が使っていた日本語を相対化することもできる。語学の楽しさを実感した。加えて、机にかじりついて一生懸命手を動かす以外の勉強の仕方があると知り、学習というものに対する視野が広がった。そして東大に入ってみて、昔の自分の狭い視野ではとてもやっていけなかっただろうとつくづく思う今日である。周囲の東大生の学習のあり方も、教官が想定している学習のあり方も、もっとずっと柔軟なものだ。さらに、大学では英語以外の授業でも当たり前のように英文の資料が使われる。外国人の教授がゲストとして講義をすることもある。高校の頃とはケタ違いの量の英語の中で、構文だの単語だのといって和訳に時間をとられていたら、などは想像もしたくない。リングのメソッドは、東大の英語入試を笑いが出るほど易しいと思わせてくれただけでなく、その後の大学生活にも通じる本物の英語力を与えてくれた。そして何より、楽しくて苦にならなかった。これをおいて他に何を、理想的な英語学習と呼べるだろうか。

<体験報告 ②> 私の中に今も生きるGDM

慶應義塾大学環境情報学部卒

大屋 佳世子 (大手情報通信会社勤務 TOEIC 990)

高校を卒業して約10年。GDM で身につけた感覚は今も私の中で生きていますと実感しながら過ごす日々である。

大学は、第一志望 SFC に現役合格。部活や委員会を思い切り楽しみ、勉強を始めたのは高3秋であったが「私大最難関の英語超長文」も苦にはならなかった。大学では交換留学でアメリカへ。約1年間、現地の学生と同じ授業を受けた。ひとつの授業につき、毎回リーディングアサインメントが50ページ以上課される。全文和訳なんてしていたら、とてもじゃないがフォローできなかつただろう。

帰国後受けた TOEIC は990点、満点。気を良くした私は、中3の時1点足らずで準1級に落ちて以来二度と受けまいと誓っていた英検にも挑戦、1級合格。なんと、今度は、一次試験合格最低点ジャストであったが…。

今は新入社員。法人営業の傍ら、国際事業リーダー候補生として、社内の経営塾に合格。若手から役員まで混じるクラスで、経営課題や国際戦略を英語でプレゼンしている。

帰国子女ではないし、我ながら真面目に勉強したことがないという弱点もある。その私が「英語なら大屋さん」の立場を獲得できたのは、身につけた語学センスの賜物。「英単語を日本語訳で覚える」勉強をせず「知らない単語は文脈で予測する」ことを学んだからだ。一文いちぶん和訳はしない。英語のまま大意を把握、求められる解を出すために必要な文章を見極め、そこを読み解くことに注力する。「テストで点数を取るための姑息な英語知識」は詰め込まず、「伝えるため、使うための英語力」に集中したのだ。大学合格を期に英語と縁の切れる人も多いが、寧ろ本当の学習は大学がスタートであり、英語はその「ツール」でしかないのだ。

GDMでの学習の日々を思い返すと、中1にして驚くべき論理性を以って英語の本質を理解していたものだ。長文の大意把握、未知の単語の意味予測、実際に声に出しての仮説検証。数学アレルギーの私が論理的な地頭力を評価されるのは、この語学習得プロセスから来たのではないかとすら思っている。でも特別な子供じゃないと受けられない授業では決してない。母国語習得のプロセスを中学生レベルに効率化しているだけだから、LINGUAに必要とされるのは、好奇心と頭を真っ白にできる素直さ、自分の意見を口にできる勇気。それくらいだ。

大学合格をゴール地点に設定したくない人は、私のように、GDM との出会いが一生を変えるかも知れない。
